

翻訳業界のリーディングカンパニーが業界基準を築く

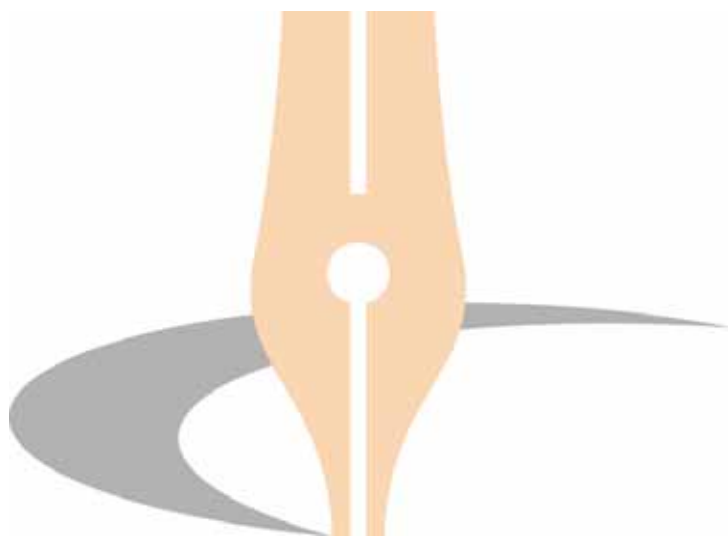
株式会社 翻訳センター 平成19年3月期決算説明会

<http://www.honyakuctr.com>

平成19年5月22日

大証ヘラクレス:2483

I . 平成19年3月期実績



1. 概 要
2. 売上高・受注動向
3. 言語別売上高
4. 登録翻訳者動向
5. 損益計算書
6. 貸借対照表

1. 概要

単位：百万円、%、円

	H18/3	H19/3	増減	伸率
売上高	3,488	4,006	518	14.8
営業利益	333	400	67	20.2
経常利益	326	389	63	19.2
当期純利益	175	210	35	19.7
一株当たり当期純利益	13,217	16,510	3,293	—
一株当たり配当金	2,000	3,000	1,000	—

- 売上・利益共に中間期時点の予想を上回り2桁の増収増益
- 工業・医薬中心に高水準な受注を獲得
- 売上総利益率が向上

(注)本文中の百万円未満は、全て切り捨てて表示しております。

2. 分野別動向 (単体ベース)

売上高

単位: 百万円、%

	H18/3		H19/3			
		構成比		増減	伸率	構成比
特許	1,344	39.9	1,475	131	9.7	38.1
医薬	918	27.3	1,070	152	16.5	27.6
工業	782	23.3	922	140	17.9	23.8
金融	252	7.5	330	78	30.9	8.5
その他	67	2.0	76	9	13.4	2.0
合計	3,365	100.0	3,874	317	15.1	100.0

受注件数

単位: 件、%

	H18/3		H19/3			
		構成比		増減	伸率	構成比
特許	9,874	34.3	10,927	1,053	10.6	34.1
医薬	9,401	32.7	10,460	1,059	11.3	32.6
工業	6,940	24.1	7,539	599	8.6	23.5
金融	2,462	8.6	3,075	613	24.9	9.6
その他	75	0.3	47	△28	△62.7	0.1
合計	28,752	100.0	32,048	3,296	11.5	100.0

3. 言語別売上高

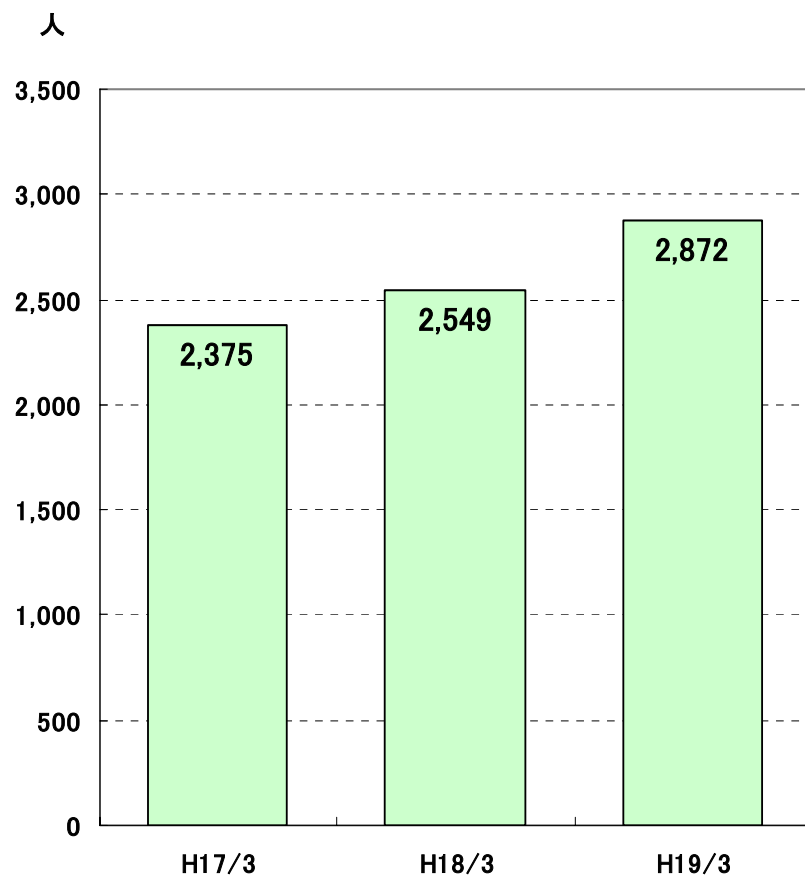
単位：百万円、%

	H18/3		H19/3		
		構成比		伸率	構成比
英語	2,771	82.3	3,312	19.5	85.5
英語以外の言語	585	17.4	554	△5.3	14.3
その他	8	0.2	7	△12.5	0.2
合計	3,365	100.0	3,874		100.0

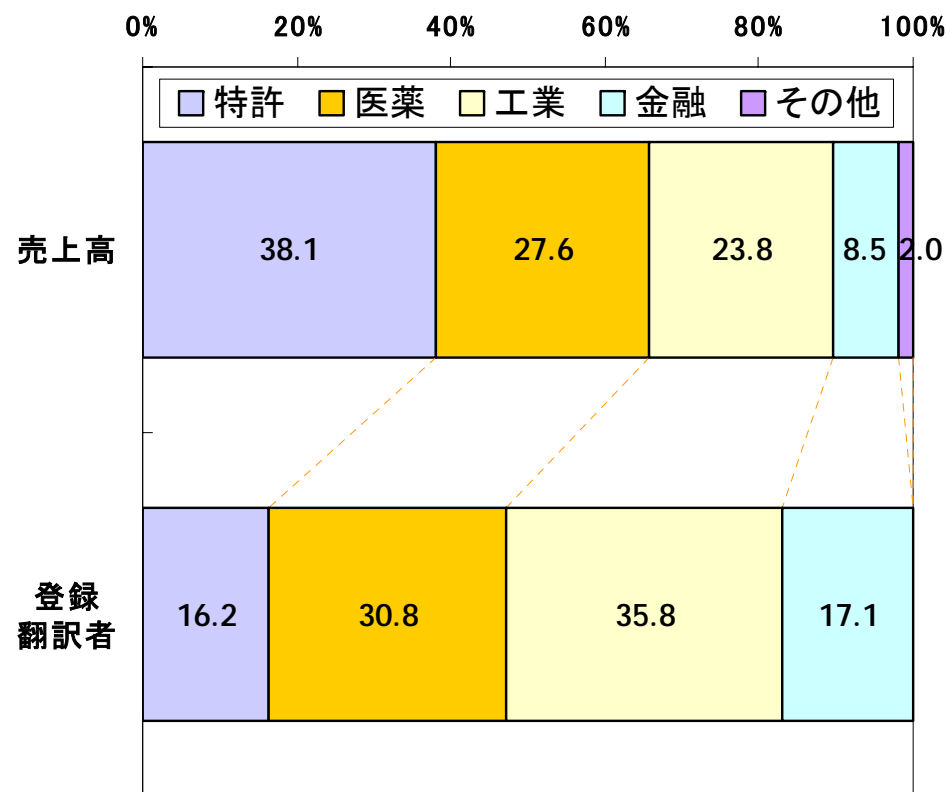
- 世界約50ヶ国語と幅広い言語に対応
- フランス語圏の大型案件が一巡
- BRICs向けは前年比22.5%増と伸張
- トルコ・タイ・インドネシア・ベトナム語も顧客ニーズが急増

4. 登録翻訳者動向

登録翻訳者数の推移



分野別登録翻訳者割合



5. 損益計算書

単位：百万円、%

	H18/3		H19/3			
		構成比		増減	伸率	構成比
売上高	3,488	100.0	4,006	518	14.8	100.0
売上原価	1,841	52.8	2,087	246	13.3	52.1
売上総利益	1,646	47.2	1,919	273	16.5	47.9
販売費及び一般管理費	1,313	37.6	1,518	205	15.6	37.9
営業利益	333	9.5	400	67	20.2	10.0
営業外収益	0	0.0	4	4	—	0.1
営業外費用	6	0.1	15	9	—	0.4
経常利益	326	9.4	389	63	19.2	9.7
特別損益	3	0.0	0	△3	—	0.0
税引前当期純利益	329	9.4	389	60	18.2	9.7
当期純利益	175	5.0	210	35	19.7	5.3

■売上総利益率が0.7ポイント向上

①売上高構成比の変化、②医薬・工業分野の売上高総利益率の向上

■上場関連費用15百万円計上(営業外費用)

6. 貸借対照表

単位：百万円

	H18/3	H19/3	増減
(資産の部)			
流動資産	1,186	1,820	634
固定資産	216	286	70
資産合計	1,402	2,107	705

(負債の部)			
流動負債	552	685	133
固定負債	97	117	20
負債合計	650	803	153

(純資産の部)			
I. 株主資本	752	1,304	552
II. 評価・換算差額等	—	0	—
純資産合計	752	1,303	551
負債純資産合計	1,402	2,107	705

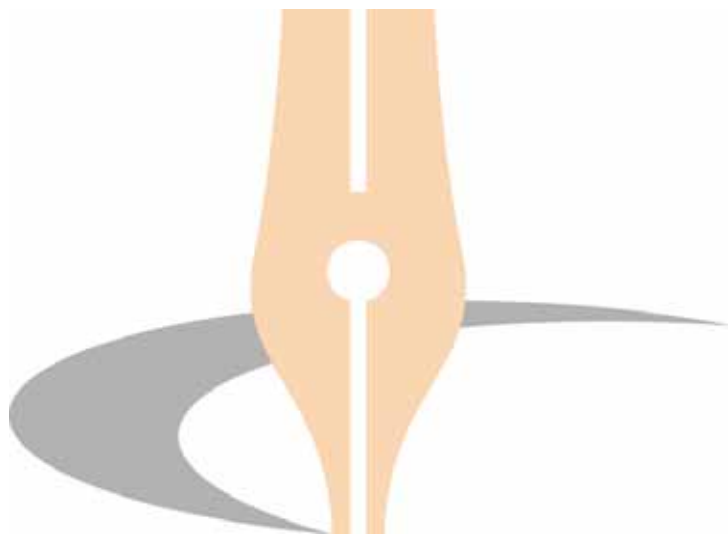
■ 流動資産

主として現預金及び
有価証券(CP)が増加

■ 上場時の新株発行に 伴う株主資本の増加

「株主資本合計」は前年の「資本合計」と比較

Ⅱ. 平成20年3月期見通し



1. 概要
2. 分野別見通し
3. 損益計算書

1. 概要

単位: 百万円、%、円

	H19/3	H20/3 (予)	増 減	伸 率
売上高	4,006	4,600	594	14.8
営業利益	400	400	0	△0.1
経常利益	389	400	11	2.7
当期純利益	210	200	△10	△5.0
一株当たり当期純利益	16,510	15,564		
一株当たり配当金	3,000	3,000		

- 旺盛な受注を背景に売上高は2桁増を予想
- 米国子会社の本格稼働による先行投資負担から経常微増益を見込む

2. 分野別売上高見通し

単位: 百万円、%

	H19/3		H20/3			
		構成比	(予)	増 減	伸 率	構成比
特 許	1,475	36.8	1,680	205	13.9	36.5
医 薬	1,127	28.1	1,280	153	13.6	27.8
工 業	934	23.3	1,120	186	19.9	24.3
金 融	392	9.8	480	88	22.4	10.4
その他	76	1.9	40	△36	△47.4	0.9
合 計	4,006	100.0	4,600	594	14.8	100.0

3. 損益計算書

単位: 百万円、%

	H19/3	構成比	H20/3 (予)	増減	伸率	構成比
売上高	4,006	100.0	4,600	594	14.8	100.0
売上原価	2,087	52.1	2,410	323	15.4	52.3
売上総利益	1,919	47.9	2,190	271	14.1	47.6
販売費及び一般管理費	1,518	37.9	1,790	272	17.9	38.9
営業利益	400	10.0	400	0	△0.1	8.7
営業外収益	4	0.1	—	△4	—	—
営業外費用	15	0.4	—	△15	—	—
経常利益	389	9.7	400	11	2.7	8.7
特別損益	0	0.0	—	—	—	—
税引前当期純利益	389	9.7	400	11	2.7	8.7
当期純利益	210	5.3	200	△10	△5.0	4.3

Ⅲ. 今後の経営戦略と重点課題

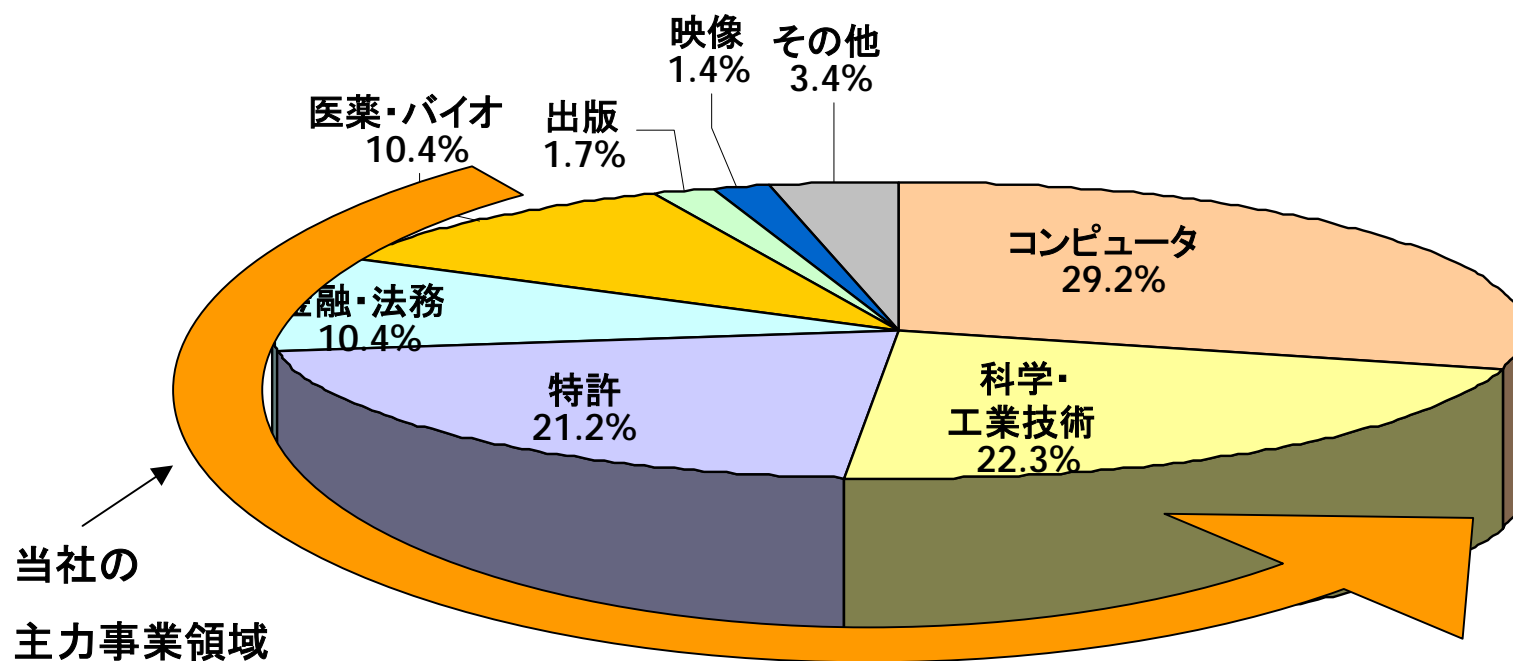


1. 産業翻訳市場
2. ビジネスモデル
3. 今後の経営戦略
4. 既存4分野の強化・拡充
5. 米国子会社
6. まとめ

1. 産業翻訳市場 (1) 日本

1 . 市場規模は**2,000億円**、**会社数約2,000社**と推定
 (社団法人 日本翻訳連盟 H 1 7 年調査)

2 . 翻訳の取扱分野



出所: 日本翻訳連盟「翻訳白書 H17年度」

1. 産業翻訳市場 (2)世界①

売上高ランキング

単位:百万ドル

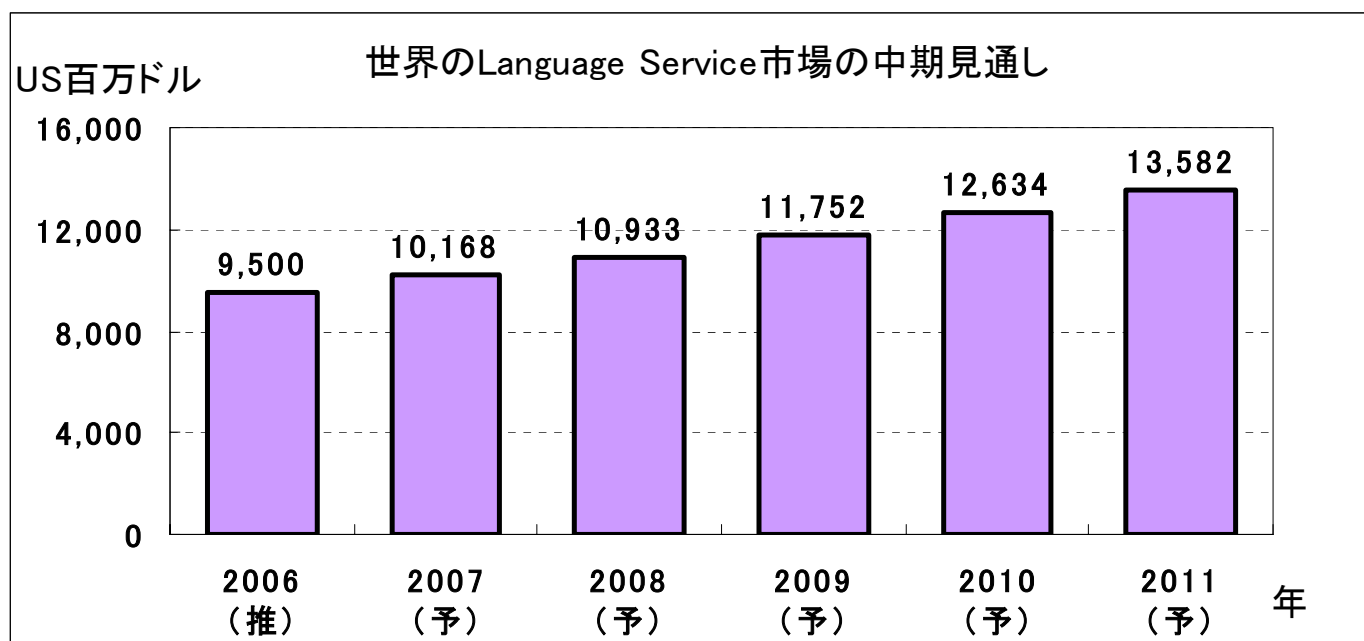
順位	社名	国名	売上高	主な取扱内容
1	L-3 Communications	米国	622.0	防衛・政府関連翻訳、防衛機器の保守・調査
2	Lionbridge technologies	米国	419.0	ローカライズ(デジタルコンテンツ・アプリケーション)、アプリケーション開発・運用・保守
3	SDL International	英国	174.5	翻訳(ソフトウェア・WEBサイト)、ローカライズ、コンサルティング
4	Language Line Holdings	米国	163.3	電話通訳、翻訳(金融・保険・医薬)
5	TransPerfect/Translations	米国	112.8	翻訳(法律・医薬・広告・金融・映像)、通訳、テープ起こし
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
10	Moravia Worldwide	チェコ	43.5	ソフトウェアローカライズ、翻訳(IT・生命科学・金融・WEBサイト)、コンテンツ開発
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
13	株式会社 翻訳センター	日本	32.6	翻訳(特許・医薬・工業・金融)、通訳

Donald A. DePalma and Renato Beninatto, "Ranking of Top 20 Translation Companies for 2007", Common Sense Advisoryを元に当社作成

1. 産業翻訳市場 (2)世界②

■2007年の世界のLanguage Service市場は約100億ドル

■2011年までの市場成長率は年平均7.5%増が予想されている



Donald A. DePalma and Renato Beninatto, “Ranking of Top 20 Translation Companies for 2007”, Common Sense Advisoryを元に当社作成

2. ビジネスモデル (1) 翻訳センターのコア・コンピタンス



業界内シェアアップ

収益力強化

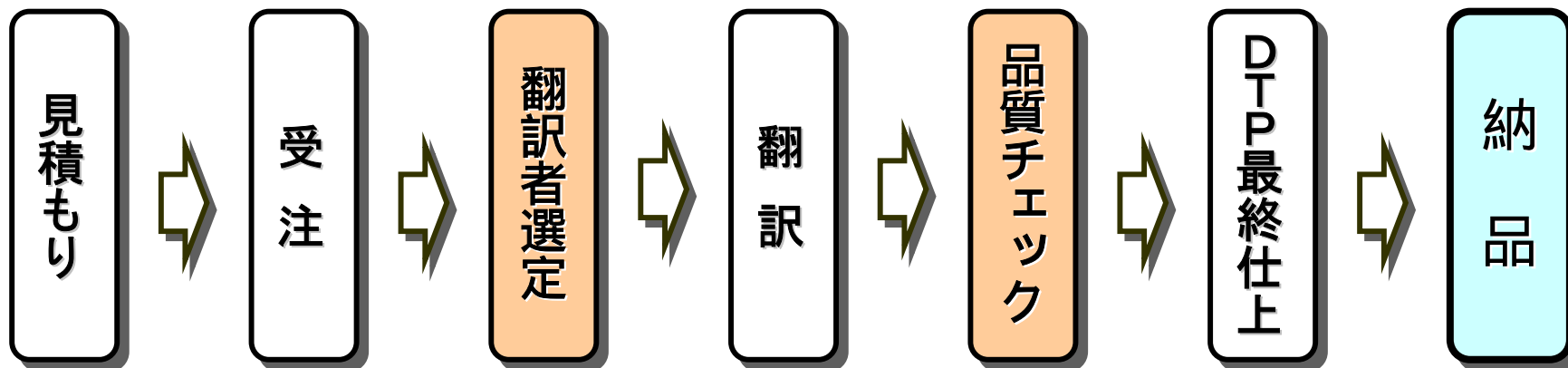
「産業翻訳界」の“ナンバー 1”
デファクトスタンダードを目指す!

2. ビジネスモデル (2) 業界最大規模の翻訳プラットフォーム

受注→納品(売上)まで通常1~4週間

営業

専門分野ごとにコーディネータが対応



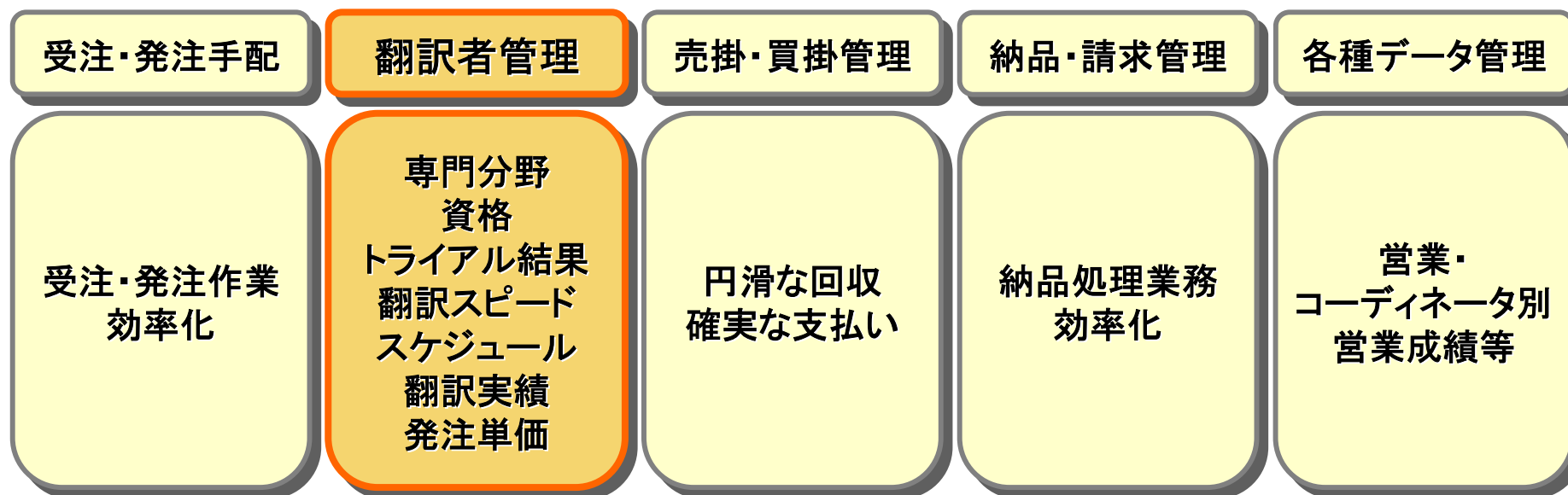
「SOLA」の翻訳者データベースの活用
翻訳案件と翻訳者のスキルなどをマッチング

コーディネータ、ネイティブ、
専門家でチェック

翻訳者の適切な品質評価
= 適切な原価管理

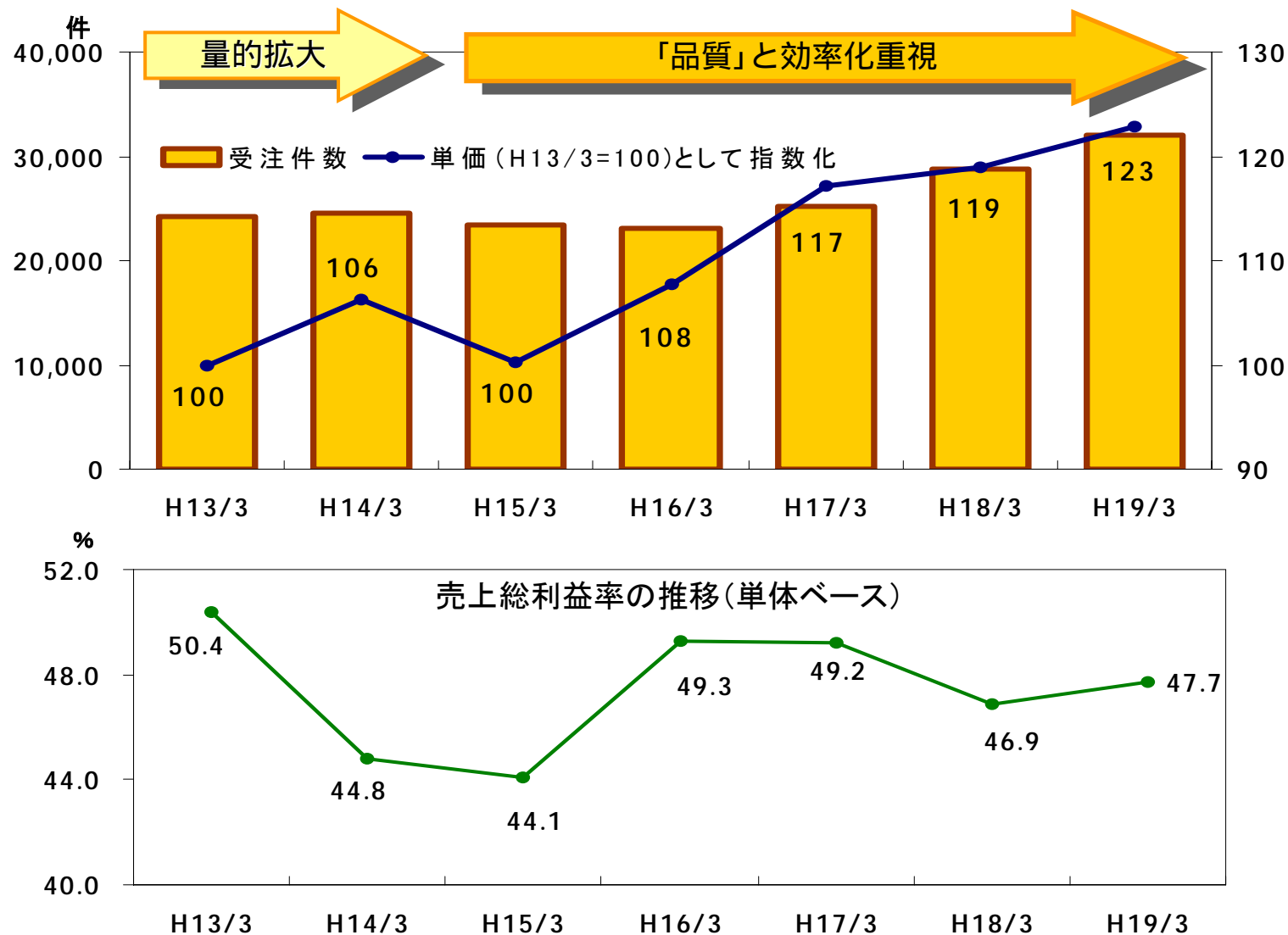
2. ビジネスモデル (3) 基幹業務システム(SOLA)

全社オンラインでリアルタイムに情報を共有化



収益管理の徹底・翻訳製品の
「高品質化」に貢献！

2. ビジネスモデル (4) 高付加価値化を推進



2. ビジネスモデル (5) 登録翻訳者

日本におけるフリーランス翻訳者は約30,000人と推定
(日本翻訳連盟 H17年調査)

質の高い翻訳者の確保と稼働率の管理

- SOLAによるスケジュール管理の徹底
- 得意分野・実績のデータベース化
- 翻訳者のスキルを様々な角度から測定
- 新規登録者417名増・登録抹消者94名 (H19/3期実績)

3. 今後の経営戦略

世界の産業翻訳市場における更なる存在感を増すために

既存4分野の強化・拡充

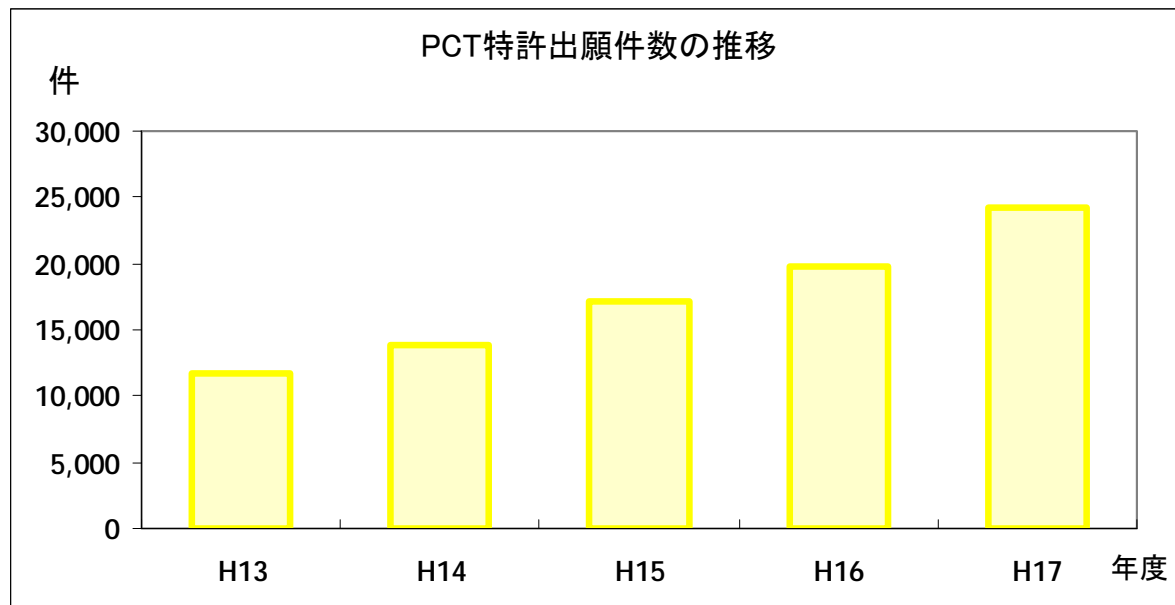
- ・高付加価値サービス
- ・組織力を活かした集中購買化提案
- ・大型案件の短納期対応

+

新規事業領域での拡大

- ・米国子会社設立
- ・翻訳対象分野の拡大
(メディアコンテンツ)
- ・営業地域の拡大

4. 既存4分野の強化・拡充 (1)特許



出所:特許庁「特許行政年次報告書」

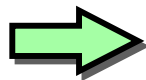
◆外国出願支援サービス

- ・英文明細書作成支援
- ・特許庁手続関連のコミュニケーション支援
- ・外国代理人との連携

◆中国特許市場

- ・出願用明細書
- ・逆翻訳(中国語→日本語)

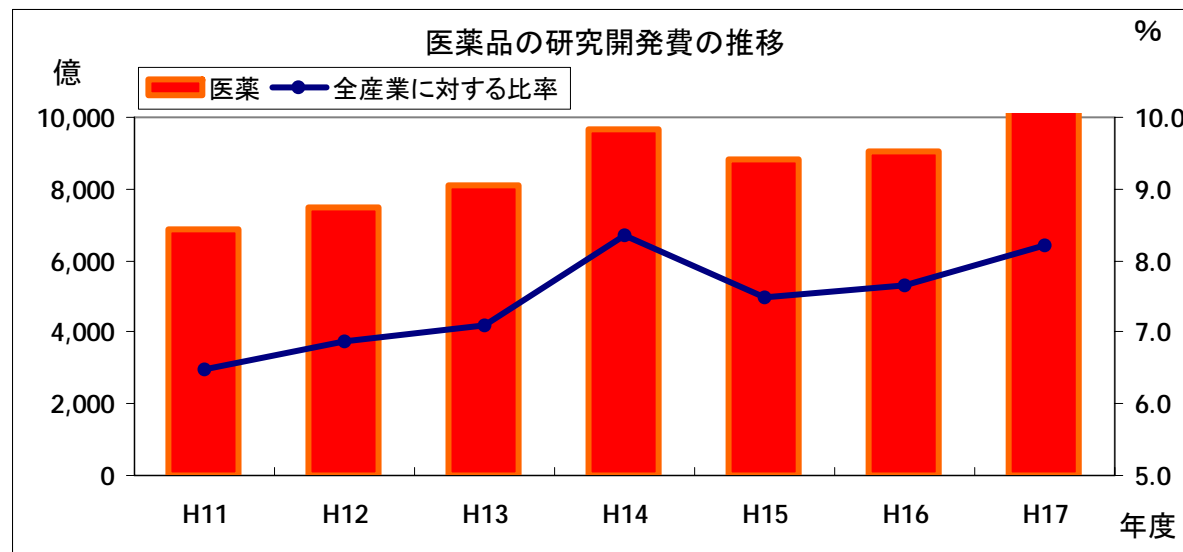
外国から日本、
日本から外国への
特許出願数の増加



取り扱い資料

電気・機械・化学・バイオの
出願用明細書、
優先権証明用明細書、
特許公報、
オフィスアクション

4. 既存4分野の強化・拡充 (2) 医薬



出所: 総務省「科学技術研究調査報告」

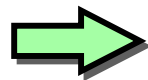
◆メディカルライティング

- ・新薬申請時の
日本語／英語資料作成

◆集中購買契約の促進

- ・メガファーマでの導入
- ・17社契約
(H19/3期末時点)

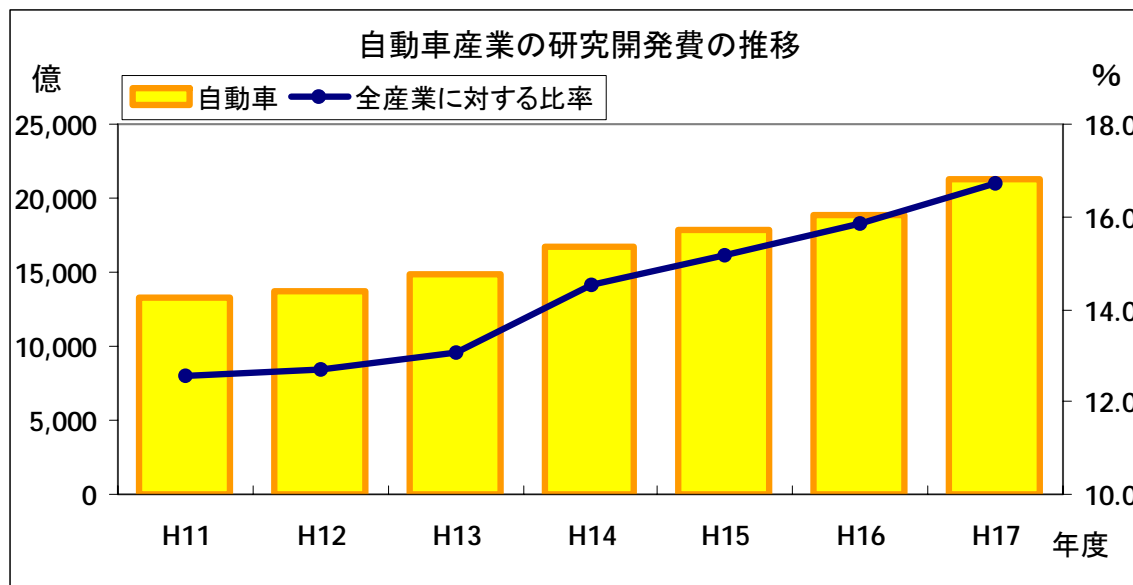
医薬品輸出入には
監督官庁
(FDA、厚生労働省)
の承認が必要



取り扱い資料

治験総括報告書(CSR)、
治験薬概要書(IB)、
コモンテクニカル・
ドキュメント(CTD)、
副作用報告書、
添付文書 など

4. 既存4分野の強化・拡充 (3) 工業



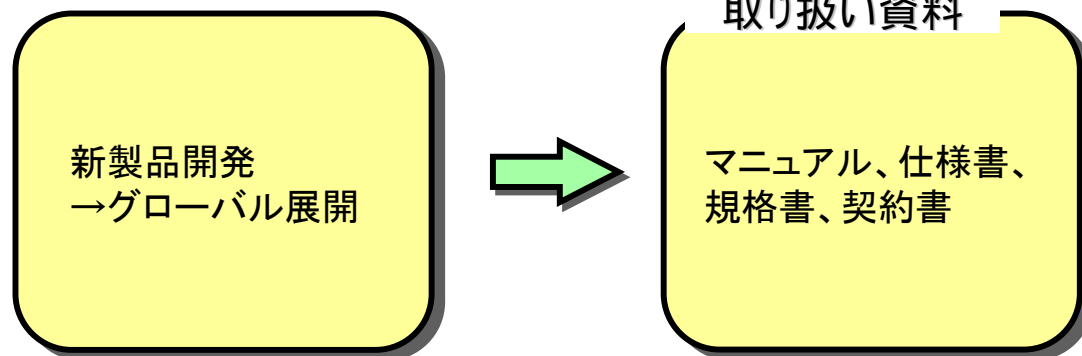
出所: 総務省「科学技術研究調査報告」

◆自動車

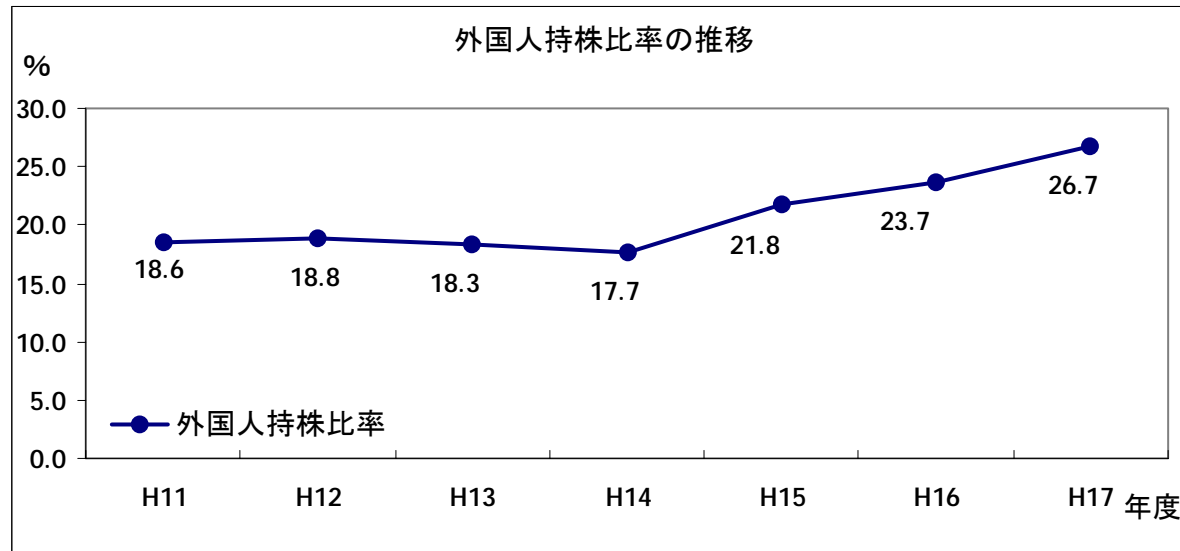
- ・自動車関連用語集の展開 (基本用語集と顧客別用語集)
- ・大型案件の短納期対応

◆今後のターゲット業種

- ・エネルギー
- ・プラント
- ・工作機械
- ・電機



4. 既存4分野の強化・拡充 (4) 金融



出所: 全国証券取引所「株式分布状況調査」

◆ IR / ディスクロージャー

- ・決算短信、株主総会招集通知、海外ロードショー用資料の英語化

◆ 渉外法務

- ・M&A案件のデューデリ用資料や契約書

◆ 金融機関

- ・証券、銀行の他、生命保険分野で売上拡大

- ・外国人持株比率の増加
- ・外国企業・投資ファンドの日本進出
- ・日本企業による外国企業とのM&Aおよび合併

取り扱い資料

ディスクロージャー資料
IR / PRツール、契約書、
デューデリジェンス報告書
市場レポート、目論見書

5. 米国子会社 (HC Language Solutions, Inc)

(1) 会社概要

設立: H18年11月

所在地: 米国カリフォルニア州 サンマテオ郡 フォスターシティ

資本金: 100万USD (翻訳センター100%出資)

年初から本格的に営業活動を開始

(2) コンテンツ関連

- ・マンガ出版社2社と契約、
15タイトル受注
- ・ゲームソフト制作会社2社と契約、
3タイトル受注

(3) 既存4分野

- ・法律事務所、日系メーカー



6. まとめ

- 将来的な飛躍に向けた先行投資の時期
- 既存4分野の強化と新規事業領域の拡大
- 顧客の企業価値・競争力向上をサポート
- 株主、顧客、翻訳者、従業員、全てのステークホルダーの満足度向上に努めます